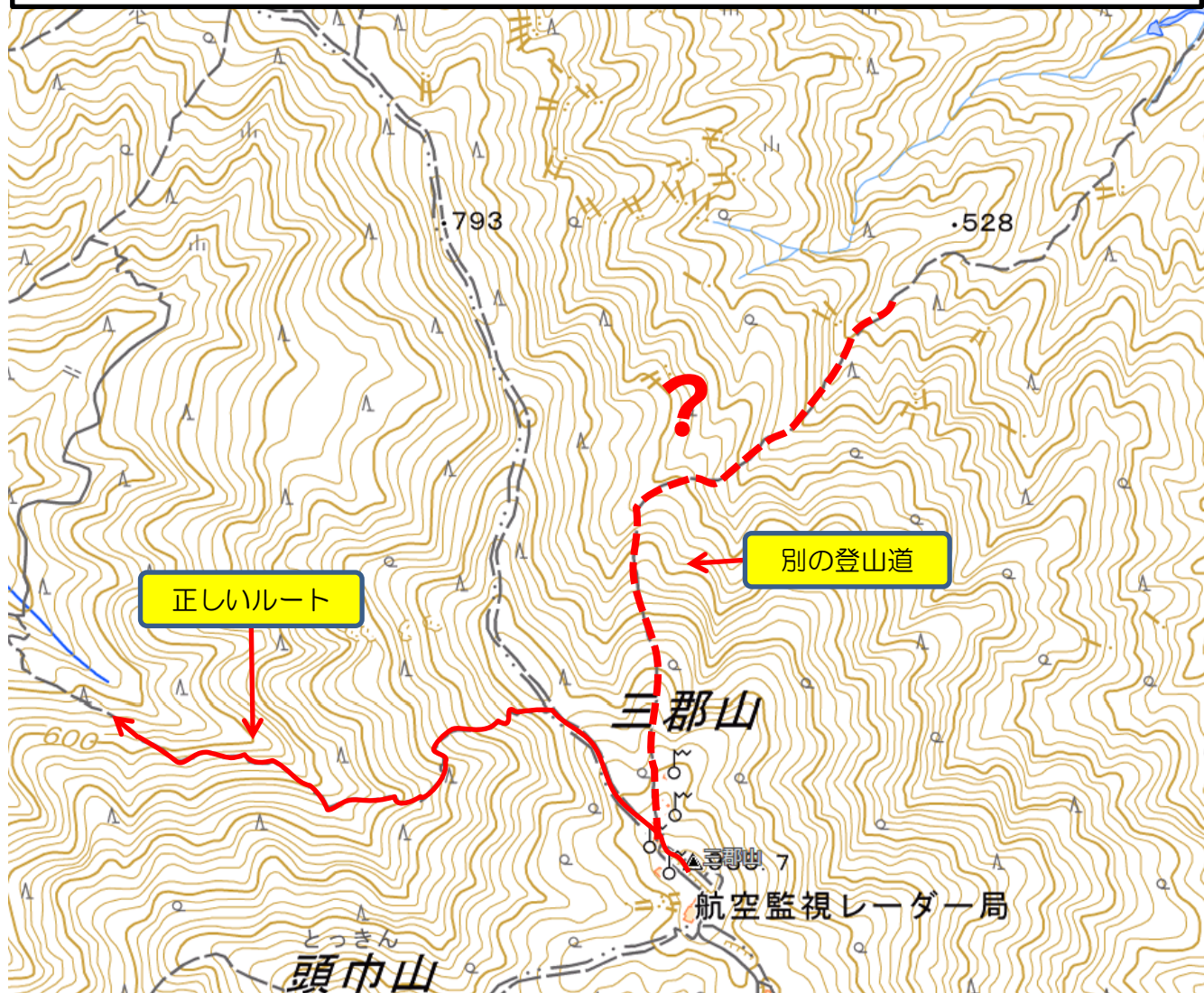


三郡山遭難(2001年10月)

小学校4～6年生の6人が遠足で行方不明。翌朝5時過ぎに下山方向とは反対側で無事見つかった。



解説

山頂で昼食を食べた後、教員を交えてグループごとにばらばらに下山した。麓の集合場所で点呼をして、6人の行方不明が分かった。翌朝5時過ぎに見つかった。発見したのは、この付近の山に詳しく、過去の道迷い遭難の捜索にも協力したことのある方で、迷っているならここだろうと見当をつけ、発見に至った。

事前の下見も行われていたが、山頂直後に本来下るべき登山道とは別の登山道が分岐していた。しかも、地形の関係でそちらの方が目立って見え、本来の下山道は見えにくくなっているため、子供たちは間違った方に入り込んでしまったようだ。この道は赤い布が所々に巻かれていたり、正しい登山道と同じように途中に電波塔があったことも間違いを助長したと思われる。

児童は、15分ほどして間違いに気づいたが、急な斜面だったので登るのがためらわれ、そのまま下ってしまった。

以上解説内容は、すべて「村越 真「山岳読図大全」(山と溪谷社)」から抜粋。